

平成25年度
発達障がい者就業支援
コーディネーター事業中間報告

大阪市障がい者就業・生活支援センター

平成25年度 登録者の状況

(以降のデータは平成25年10月31日のもの)

登録者数		196名
内訳	①前年度からの 継続支援者	131名
	②平成25年度 新規相談者	65名

- ・「登録者」とは、継続した就労支援を希望している者
- ・4年以上継続して関わっている登録者の存在→長期にわたる支援の必要性

①登録者の状況

在学中
6%

その他
8%

求職中
45%

在職中
41%

在学者の内訳

高等学校	4名
専門学校	2名
専修学校	1名
大学	4名

在職者の内訳

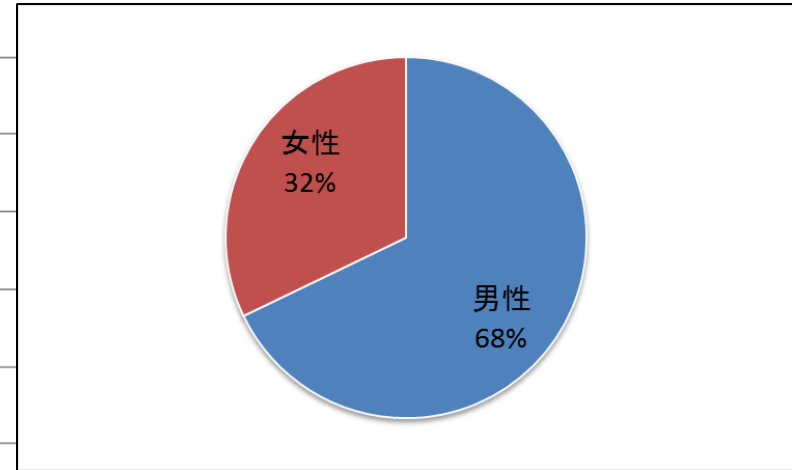
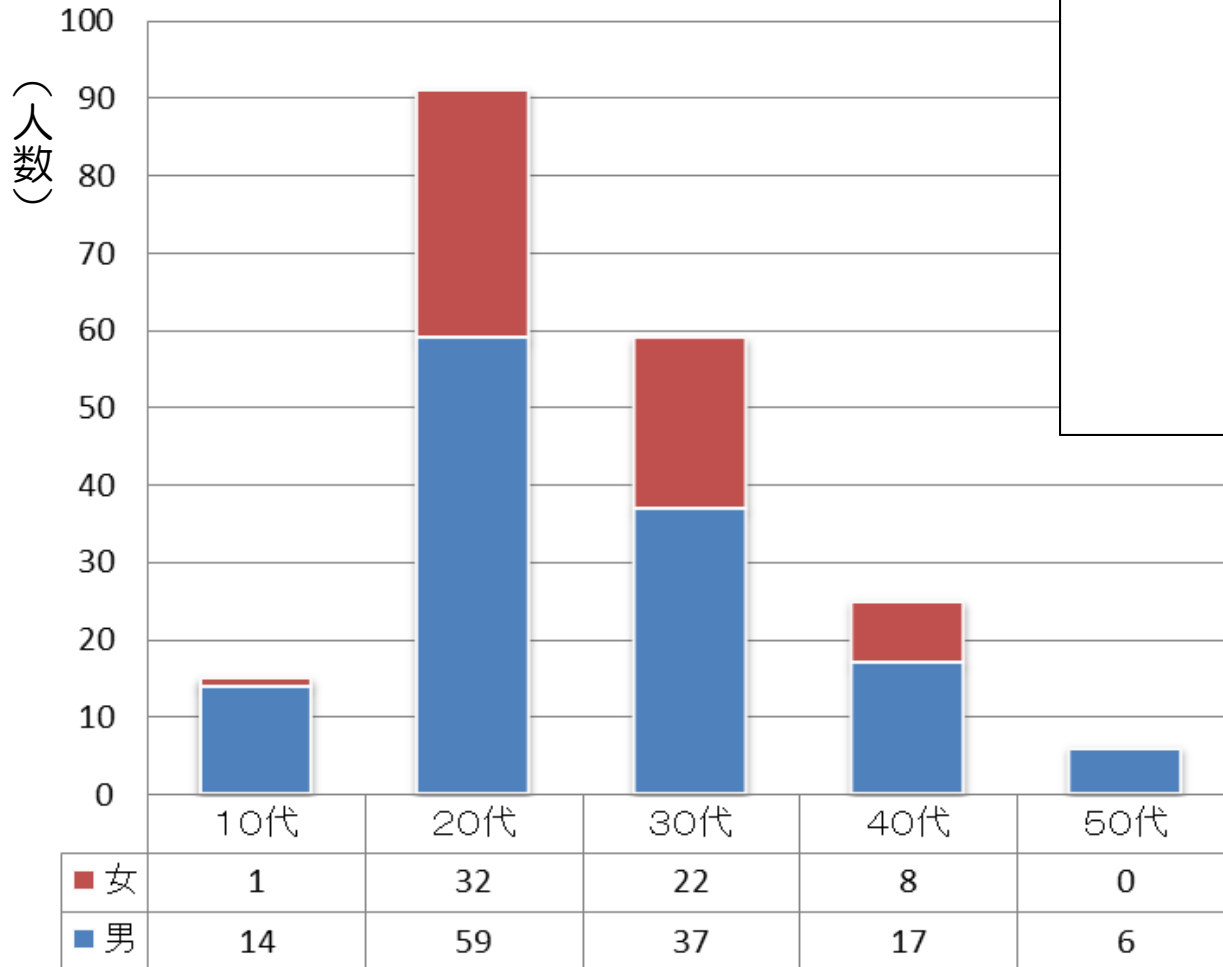
障がい者雇用	62名
一般雇用	17名
一般雇用（休職中）	2名

人数内訳

求職中	88名
在職中	81名
在学中	11名
その他	16名
合計	196名

- ・就ポツの支援開始後に就労する人は「障がい者雇用」を選択する人が多い
- ・「一般雇用」の人は、就職後に障害に気付いた人、障がいがある事を伝えずに働いている人

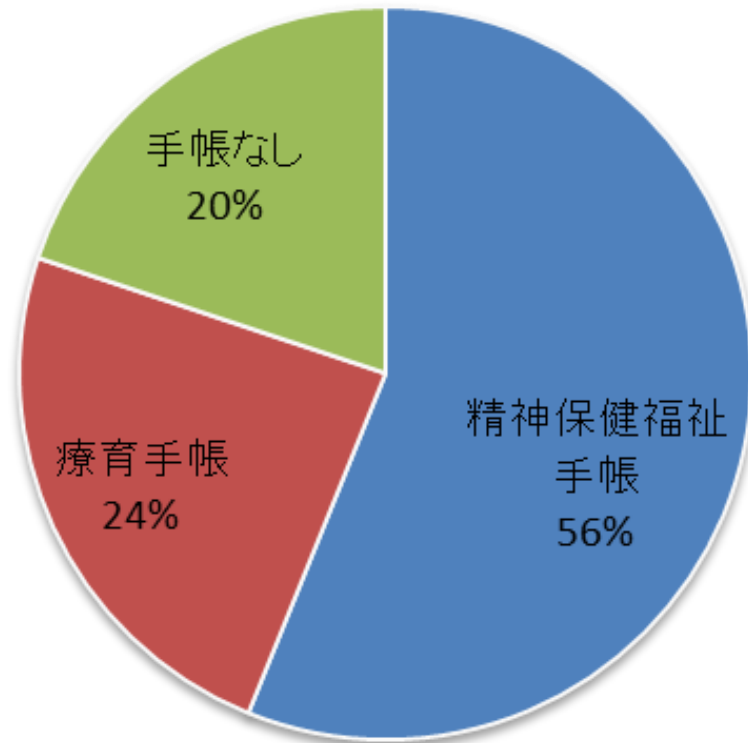
②年齢層



全体の男女内訳	
男性	133名
女性	63名
合計	196名

- ・ 20代～30代の相談が中心
- ・ 年齢が上がると女性相談者は減少

③所持している手帳の種類



支援機関との関わりの中で
障がい者手帳取得を検討し、
取得を決める人が多い

	継続支援者	平成25年度 新規相談者	合計
精神保健福祉手帳	85名	25名	110名
療育手帳	31名	16名	47名
手帳なし	15名	24名	39名

(2) 新規相談者の状況

相談者数の変化

新規 相談者	H20年 度	H21年 度	H22年 度	H23年 度	H24年 度	H25年 10月末	合計
	37名	47名	63名	97名	82名	65名	391名

(人数)

120

100

80

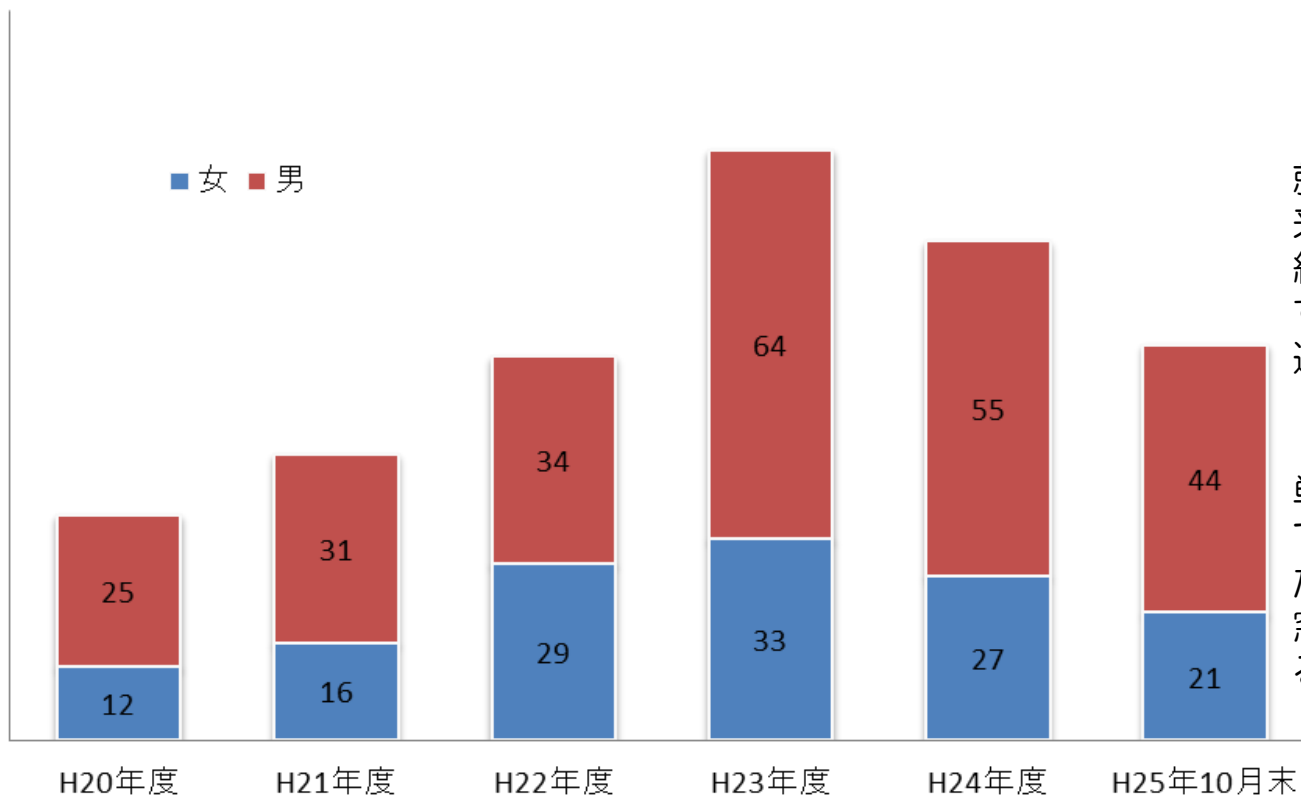
60

40

20

0

■ 女 ■ 男

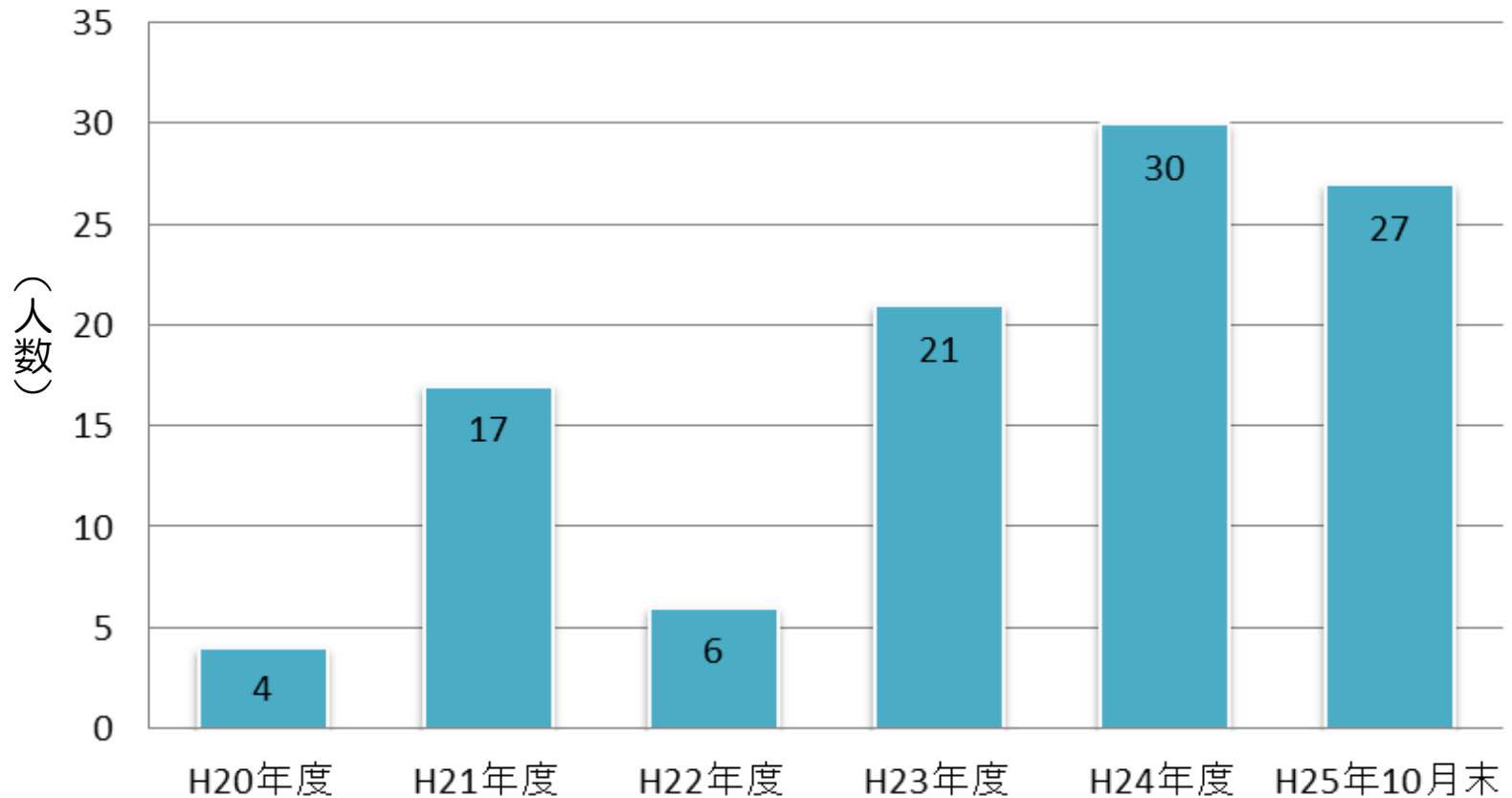


・相談者は依然として多い

・発達障害者を対象とした就労支援サービスが増えてきているが、その活用方法や組み合わせ、就労継続を支援する環境づくりはなかなか浸透していない

・発達障害のある人の中には単独ではサービスにつながっていくことが難しい人もいるため「情報を整理し、必要な窓口につながるきっかけを作る」支援が重要になる。

(3) 就職者の状況



- ・ 就労前に訓練等の職業準備を行うことで、確実な就労につながっている。
- ・ 職業準備は特性の整理、苦手を補う工夫、人との関わり方の学びなど体験を通しての学びが中心となるので、数か月～数年と時間がかかることが多い。